

図書館だより 9月号

令和5年9月13日発行 川島中学校・高等学校図書館

『図書委員が選ぶ、ふわもこ動物の本』をご紹介します！

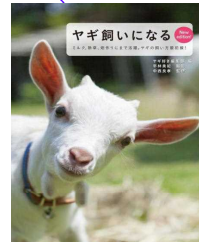
この夏、徳島県立図書館（徳島市・文化の森総合公園内）では、「図書委員が選ぶ、ふわもこ動物の本」として、県下の高等学校図書委員さんが選んだお気に入りの本を展示しています。もちろん、本校図書委員さんのオススメの1冊もありますよ！会期は9月18日までですが、機会があれば、ぜひ、ごらんください。

ヤギ飼いになる ヤギ好き編集部/編 誠文堂新光社

みなさんは「ヤギ」を近くで見たことはありますか。「動物園でなら見たことがある」という方は多いかもしれませんが、それは「観察」しただけで、ヤギの「性格」や「役割」、「思想」については知らない方が多いと思います。そんな方に、今から私が全力で「ヤギ」の魅力をご紹介します。

「ヤギ」と聞くと、ただひたすら地面の草をもくもくと食べている姿を想像するのでは。正面からの顔を思い出せますか？実は正面から見ると、笑っているように見えます。そして、一匹一匹異なる性格をしていて、犬や猫と同じように人間が名前を呼ぶときちゃんと「メー」と返事をしてくれます。

この本は文字数が少なく、ほぼ全ページに写真があり、自然のままのヤギの姿を見ることができます。だから、読み進むうちに、今、目の前にヤギがいるような気分になってきます。カメラ目線の子ヤギも多く、とても癒やされる、リアリティ満載の一冊です。（6年女子）



じんぺいの絵日記 ゆうたくんちのいばりいぬシリーズ きたやまようこ/作 あかね書房

私が紹介する本は、犬のじんぺいの目線で、日常のできごとを日記にしたような絵本です。犬目線の絵日記というのがなんとも不思議で、ツンデレなじんぺいが可愛くて心温まる絵本です。じんぺい目線だからこそ垣間見えるユーモアにも、また、いやされます。犬から見たら、実は人ってこんな感じなのかなと考えるのも面白いです。

普通の犬ならではのあの行動も、ひょっとしてこんな意味があったのかなと思うと、犬のことがいっそう愛おしくなります。いばりいぬでありながらとても心優しいじんぺい。犬好きなら必ず好きになる一冊です。（6年男子）



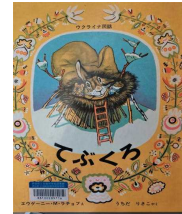
←図書館内に展示中！



ことり 小川洋子/著 朝日新聞出版

人間の言葉は話せないが、小鳥のさえずりを理解できる兄。その兄の死後、唯一、兄と小鳥たちの言葉を理解することができた弟が、小鳥たちと共に人生を送っていく物語が、この『ことり』です。

鳥小屋の管理人として、子どもたちに「小鳥の小父さん」というニックネームで親しまれたり、図書室の司書に恋心のような想いを抱いたり……。静かながらも心を惹きつけられるストーリー。小鳥たちと、その美しいさえずりを愛した「小鳥の小父さん」の物語を、ぜひ読んでみてください。（6年男子）



てぶくろ ウクライナ民話 福音館書店

私が紹介する本は、『てぶくろ』です。この絵本は、雪が降る冬の日におじいさんが道に落としたてぶくろに、動物たちが住み始めるお話です。

ネズミやウサギなどの小動物たちから始まって、最後にはクマのような大きな動物まで「中に入れてほしい。」とやってきます。ぎゅうぎゅうになって入れなくなりそうなときに、動物たちがどうするのか。最後にてぶくろがどうなるのか。見どころがたくさんあります。かわいい動物たちのやりとりにとってもいやされるので、ぜひ、読んでみてください。（5年女子）



ぼく モグラ キツネ 馬 チャーリー・マッケンジー 飛鳥新社

この本には、たくさんの絵が描かれているので、本を読むのが苦手な人でも楽しんで読むことができると思います。

私がこの本を好きな理由は、「ぼく」がつぶやく疑問に「モグラ」の返す言葉が弱った心に染み込んでいくからです。お気に入りのモグラの言葉は、「じぶんにやさしくすることが、いちばんのやさしさなんだ」です。この言葉を読むと、自分にやさしくなれることができます。

生きていく中で、嫌なこと悲しいことがあったときは、この本を開いてみてください。きっと自分にやさしくなれると思います。（4年女子）

猫を棄てる 父親について語るとき 村上春樹/著 文藝春秋

主人公である村上春樹さんのお父さん、戦争を体験した父親について語られている本です。僕はこの本を読んで戦争がもたらすいろいろな影響があることを実感しました。特に、一番印象に残っているのは、村上春樹さんが小学校低学年の時に、父親である村上千秋さんと一緒に猫を海岸の浜に置き、家に帰ってしまったことです。それから、父親は大学生になった春樹に突然自分の過去のことを伝えます。戦争を体験した自分の思い、戦争の悲惨さ、猫を捨てた時の自分の感情などいろいろなことを明かします。戦争でたくさんの人を殺してしまった、猫を捨てたことの過ちを父親自身で春樹に語ります。

「棄てられる」という言葉の重み、動物に対する命の尊さを実感できる本です。（4年男子）



みなさんも、お気に入りの動物の本はありますか？
この他にも、図書委員さんがオススメする動物の本は図書館内に展示中です！
動物たちの本を、ぜひ、手に取ってごらんください。

HR別貸出冊数のグラフはお休みします。来月号をお楽しみに！